

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期安芸太田町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

広島県山県郡安芸太田町

3 地域再生計画の区域

広島県山県郡安芸太田町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は 1955 年 23,312 人をピークに減少しており、住民基本台帳によると 2024 年 12 月末には 5,367 人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2055 年には総人口が 2,259 人となる見込みである。

年齢3区分別の 1965 年以降の人口動態をみると、年少人口（0～14 歳）は 1965 年の 4,519 人（構成比：26.5%）から一貫して減少しており、2020 年には 466 人（構成比：8.1%）となった。一方、老年人口（65 歳以上）は、1965 年の 2,135 人（構成比：12.5%）から増加してきたが、2000 年の 3,609 人（構成比：39.3%）をピークに減少に転じ、2020 年には 2,991 人となった。ただし、高齢化率（構成比）は 52.1%まで上昇しており、今後も少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64 歳）も 1965 年の 10,367 人（構成比：60.9%）をピークに減少傾向にあり、2020 年には 2,283 人（構成比：39.8%）となっている。

自然動態をみると、出生数は 1980 年代頃までは 100 人前後で推移していたものの、その後は減少傾向が進み、2000 年代には 50 人前後、2010 年代には 30 人前後となり、近年はさらに減少が進み、2023 年は 10 人となっている。その一方で、死亡数は 1980 年代ごろから 120～180 人程度で推移しており、直近の 2023 年は 152 人となっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲142 人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2000 年代以前は、100 人前後、多い年で 160 人程度の社会減となっていたが、近年は、社会減が縮小しており、2020 年には転入者（218 人）が転出

者（206人）を上回る社会増となるなど、転出入は均衡に近づいている。

以上のように、本町の人口動態は、自然減が大きいため、少子高齢化に伴う生産年齢人口の大幅な縮小等により、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

なお、地域産業の状況をみると、近年、本町の町内総生産は約200億円で推移しており、町内就業者数は減少が続き、2021年度には2,998人となり2011年度から428人減少（12.5%減）した。また、町内総生産でみた基幹産業は、公共性の高い産業（電気・ガス・水道・廃棄物処理業、公務、教育、保健衛生・社会事業）の構成比が約45%と、全国平均・広島県平均約20%に比べて、極端に高くなっており、公共的なサービス分野に依存した産業構造からの転換が課題となっている。

これらの課題に対応し、人口を維持するため、社会増減に着目し、本町の強みを伸ばす（魅力の向上）とともに弱みを改善（生活利便性の向上）することで、移住者の増加と転出者の抑制を図り、多様な価値観や能力を持った人材が、生涯を通じて活躍できる「人づくり」を推進するとともに、デジタル技術を積極的に取り入れることにより、地理的条件の不利や人手不足を克服し、様々なサービスをより高い水準で提供できる、中山間地域のモデル地区の形成を目指すことで、持続的な町づくりを実現する。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における重点方針として掲げ、地方創生に資する事業の実施を通して目標の達成を図る。

基本目標1 地域資源を活かした仕事をつくる

基本目標2 安芸太田町への人の流れをつくる

基本目標3 子育てしたいと思える地域をつくる

基本目標4 住み続けたいと思える地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2028年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	観光消費額	11.9億円	13.6億円	基本目標1

イ	人口の社会増減	▲49人	+ 0人以上	基本目標 2
ウ	この地域で子育てがしたい と思う親の割合	83.8%	95%	基本目標 3
エ	住み続けたいと思う住民の 割合	79.6%	82.0%	基本目標 4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第3期安芸太田町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 地域資源を活かした仕事をつくる事業

イ 安芸太田町への人の流れをつくる事業

ウ 子育てしたいと思える地域をつくる事業

エ 住み続けたいと思える地域をつくる事業

② 事業の内容

ア 地域資源を活かした仕事をつくる事業

国土保全や環境保護にも通じる第一次産業への積極的な支援に加え、
地域の各種産業への波及効果が期待される観光産業の強化・充実などに
より、雇用を創出するとともに担い手を育成する。

【具体的な事業】

- ・新生「道の駅 来夢とごうち」を核とした観光まちづくりの推進
- ・地域資源を活かした産業の担い手の育成
- ・地域資源を活かした産業の振興 等

イ 安芸太田町への人の流れをつくる事業

持続可能な人口を維持するため、社会増減に着目し、本町の強みを伸ばす（魅力の向上）とともに弱みを改善（生活利便性の向上）することで、安芸太田町への人の流れを創出する。

【具体的な事業】

- ・住環境整備による暮らしやすさの向上
- ・新・教育大綱の具体化と「森のようちえん」構想の推進
- ・広島県立加計高等学校の支援 等

ウ 子育てしたいと思える地域をつくる事業

子ども達のがのびのび育つ環境を作るだけでなく、親世代も子育てや仕事、様々な分野で活躍できる環境を作ります。

【具体的な事業】

- ・あんしん・子育て Park あきおおたの実現
- ・ICT活用による「学び」の充実 等

エ 住み続けたいと思える地域をつくる事業

住み慣れた場所で暮らし続けることができる環境づくりのほか、安全な生活インフラの整備や防災の強化等地域の安全性・強靱性を高めます

【具体的な事業】

- ・生活サポートの仕組みづくりによるコミュニティの維持
- ・太田川の自然と調和した快適な環境づくり
- ・いつまでも元気で暮らすための健康づくり活動の推進
- ・morica（もりか）の活用推進
- ・公共交通の利便性向上と持続可能性の確保
- ・暮らしを豊かにする「学び」の環境整備
- ・住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムの推進
- ・安心して暮らすことができる医療の環境整備

- ・地域共生社会の実現
- ・快適で安全安心な生活インフラの整備促進
- ・安心して暮らすことができる防災・防犯の環境整備
- ・情報発信によるつながりの拡充等

※ なお、詳細は第3期安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

200,000 千円（2025年度～2028年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2029年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2029年3月31日まで